もっと貝塚や遺跡のことを知りたい！

こちらの本やパンフレットでは、もっと遺跡のことをくわしく知ることができます。
写真右がわのコードから読むことができるほか、船橋市内の図書館・郷土資料館・飛ノ台史跡公園博物館でもらえます。ぜひ読んでみてください。（くばりおわっていることもあります）

取掛西貝塚のことをもっと知りたい！

取掛西貝塚の見どころを、わかりやすく紹介しています。

（無料でもらえます）

リーフレット
「取掛西貝塚ってどんな遺跡？」
B5サイズ・フルカラー4ページ

取掛西貝塚について、遺跡の特徴や最新の調査成果が、くわしくかいてあります。

（無料でもらえます）

パンフレット
「取掛西貝塚　1万年前の貝塚からみえる暮らしと環境」
A4サイズ・フルカラー8ページ

船橋市にあるほかの遺跡をもっと知りたい！

船橋市におよそ200か所ある遺跡の地図や、遺跡からわかる船橋市の歴史がのっています。

（無料でもらえます）

「君の足元にねむる船橋の遺跡マップ」
A2サイズ折りたたみ・両面フルカラー

船橋市にある主な遺跡15か所で見つかったムラやお墓のあと、道具などについて、わかりやすく紹介しています。

（1冊300円）

「ふなばしの遺跡」
A4サイズ・フルカラー44ページ

もっと知りたい！本物の、縄文土器や石器を見たい！

飛ノ台史跡公園博物館

〒273-0021 船橋市海神4-27-2　電話：047-495-1325

船橋市の飛ノ台史跡公園博物館では、縄文時代の船橋について展示しています。また、取掛西貝塚で見つかった貝塚の一部も見ることができます。ぜひ来てみてください！

「1万年前の世界をのぞいてみよう　取掛西貝塚」
編集・発行　船橋市教育委員会生涯学習部文化課
（第2版）　令和4（2022）年4月28日発行
千葉県船橋市湊町2-10-25
電話：047-436-2887

1万年前の世界をのぞいてみよう

国史跡

取掛西貝塚

千葉県船橋市

小学校3年生～

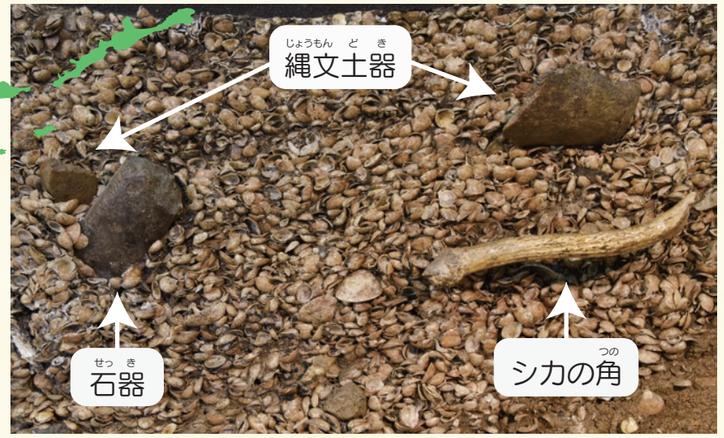
取掛西貝塚について

取掛西貝塚では、およそ1万年前のムラのあとや貝塚（人が食べたあとにすてた貝がらの山）が見つかりました。

全国的にもとても古い貝塚で、とても貴重な遺跡（昔のムラやお墓やお城の跡）です。

1万年前の人たちは、どんなくらしをしていたのでしょうか。

▲空から見た取掛西貝塚
（黄色の線が遺跡のあるところです。広さはおよそ76,000平方メートル、東京ドームのおよそ1.6倍です）



▲貝塚には縄文人が食べた貝がらがぎっしり！
動物の骨などもすてられていました。

全国レベルの重要な遺跡

日本中にたくさんある遺跡のなかで、とくに重要な価値のある遺跡は、国の「史跡」として守られています。

取掛西貝塚は、貝塚のはじまりを知ることのできる、日本全国からみても、とても貴重な、みんなでずっと守っていきたい大事な遺跡なのです。

取掛西貝塚では、およそ1万年前のほかにも、いくつもの時代のムラのあとが見つかりました（⬆のところ）。

それぞれくらべてみると、くらしのようすが少しちがっています。

●縄文時代のくらし

縄文時代には、ムラをつくり、あつまって住むようになり、狩りや漁をする、植物や木の実をとるなど、自然にあるものを食べ物や道具の材料にしていました。縄文時代は、1万年をこえる、とても長いあいだつづきました。

●弥生時代のくらし

弥生時代には、大陸や朝鮮半島から米作りがつたわり、田んぼをたがやして稲をそだて、米を作って食べていました。また、金属の道具もつたわり、使うようになりました。

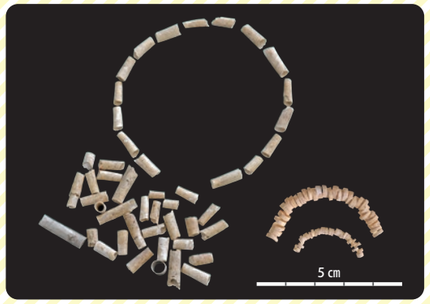
くらべてみよう！縄文時代と今のくらし

縄文時代と今のくらしは、どれくらいちがっているのでしょうか。ここでは衣・食・住に分けて、取掛西貝塚で見つかった1万年前のものが、今のくらしで何にあてはまるか見ていきましょう。

衣 着飾る

およそ1万年前（縄文時代）

アクセサリーをつけた縄文人
（イメージです）



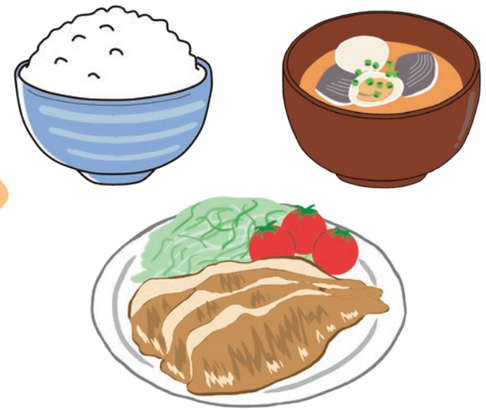
貝がら（ツノガイ・タカラガイ・ヤマトシジミ）や動物の骨・歯（サメ）・牙（イノシシ）で作られた、 アクセサリーがたくさん見つかりました。ビーズやペンダント、髪留めなどを身につけていたようです。

今（現代）

食 食べる

狩りのようす（落とし穴・弓矢）

貝塚では、縄文人が食べていた動物の骨や貝がらがみつかりました。（イノシシ、シカ、ウサギ、クロダイ、スズキ、コイ、フナ、アユ、ヤマトシジミなど）。このほか、食べ物では木の実も見つかっています（クルミ、ミズキ、ダイズ、ニワトコなど）。タヌキ、キツネ、アナグマ、ムササビ、キジ、カモ、ハクチョウ、



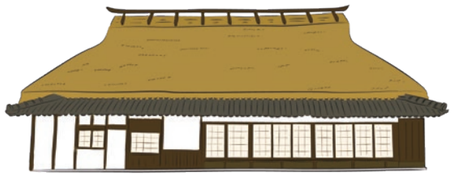
住 住む

※縄文時代の住居
（イメージです）

炉跡（火をたいたあと）

取掛西貝塚では、地面をほって作った家のあと（竪穴住居跡）がたくさん見つかりました。
床には柱を立てるための穴がいくつもほられています。

およそ100年前（近代）



道具とくらしのうつりかわり

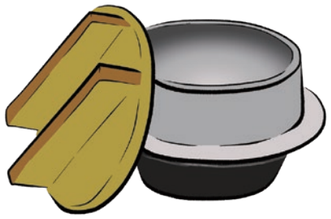
同じ役割をする道具をならべてみると、昔と今のくらしのようすのちがいが見えてきます。ここでは料理に使う道具をみながら、1万年前から今まで、どのように変わってきたか見てみましょう。

およそ1万年前（縄文時代）

縄文土器

粘土を焼いて作った土器を、煮炊きや物を入れるのに使っていました。

およそ1 00年前（近代）



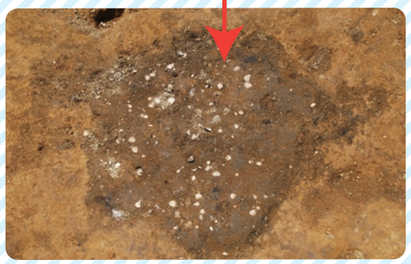
羽釜

今（現代）

鍋

フライパン

灰や焼けた土が残っています

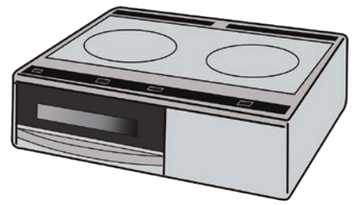


炉

家の床や地面にくぼみをほって火をたくことであたたまるとともに、煮炊きをしていたようです。

かまど

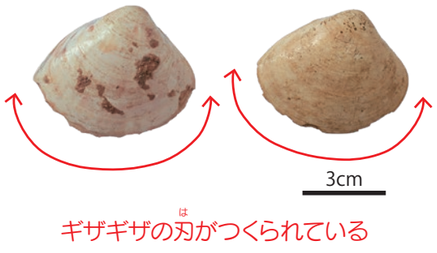
電子レンジ



IH調理器

ほかにも、1万年前の貝塚からはこのような道具が見つかりました。今使われている道具とあ まり変わらないものもありますが、今のくらしではふだん使われないような、狩りや漁の道具などもあります。

骨針（毛皮などを縫う針）



貝刃（魚のウロコなどをとる道具）

石鏃・骨鏃（狩りに使う弓矢の矢じり）

骨角製刺突具（魚などの獲物をとる道具）